

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県 鏡野町

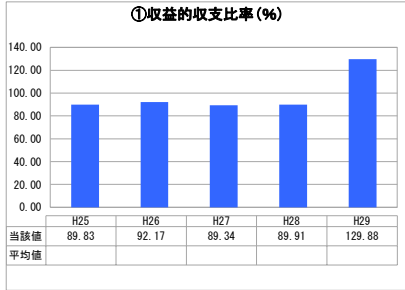
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	55.52	100.00	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,211	419.68	31.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
7,280	3.73	1,951.74

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



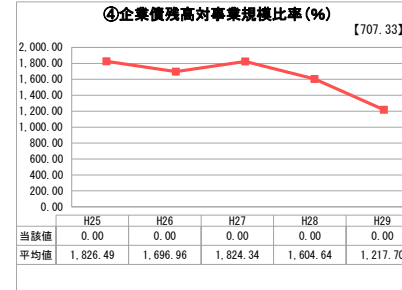
「単年度の収支」



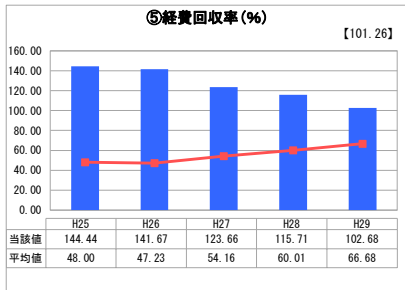
「累積欠損」



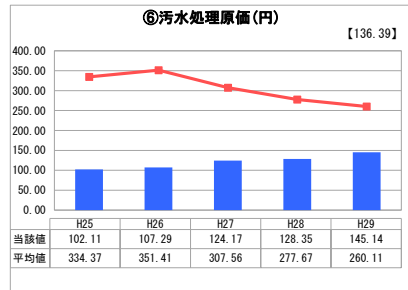
「支払能力」



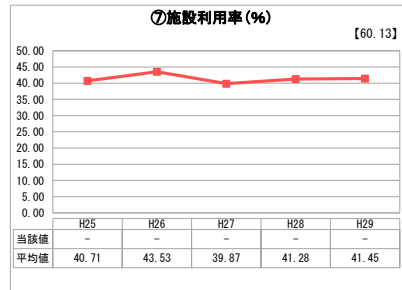
「債務残高」



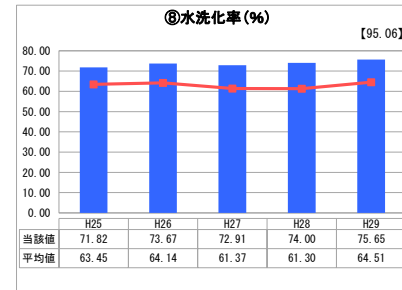
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

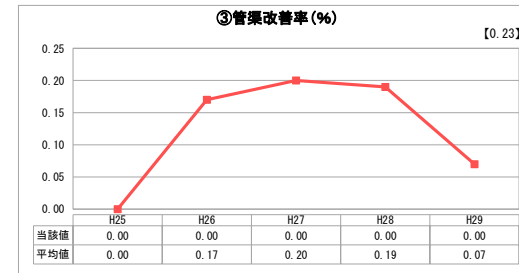
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

鏡野町の公共下水道事業は、鏡野地区に整備中の施設で、平成15年3月31日に供用開始しています。大きな特徴として汚水の処理については隣接する津山市の処理場を1市2町で利用しています。

経営の健全性・効率性について
①収益的収支比率が100%を超えています。これは平成30年4月1日からの公営企業会計適用に際し基金の取り崩し等を実施したためです。
⑤経費回収率、⑥汚水処理原価、⑧水洗化率も同規模他団体の平均値に比べると良好な数値となっていますが、最も大きな要因は前述のとおり、処理場を広域利用していることと考えています。

④企業債残高対事業規模比率については、公債費償還金について全額が一般会計からの繰入金準に合致しているため記載がありませんが、現在も整備中であるため起債残高は年々増加しており、平成29年度末では51億円を突破しています。これについては、毎年の起債借入額が償還額を上回らないようにし、残高を減少させていくこととしています。

2. 老朽化の状況について

本事業は、平成10年度からの整備開始で、処理場を持たないことから、老朽化については未だ対策の検討までは行っておりません。しかし、ポンプ設備等については耐用年数が短いことから、維持管理を民間事業者へ委託し、適切な管理を実施しています。

全体総括

下水道事業については、平成30年度より企業会計へ移行しており、平成30年度の決算からは、より詳細な経営状況の分析が可能となります。これまでの官庁会計方式では比較的良好であった本事業についても、資産の減価償却等の概念が導入されることにより、より実態に合った経営分析ができることから、有効な将来計画策定を検討していきたいと考えています。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県 鏡野町

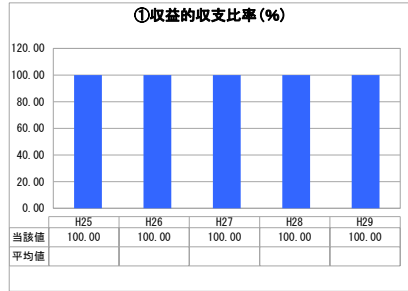
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	1.71	100.00	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,211	419.68	31.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
224	0.16	1,400.00

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



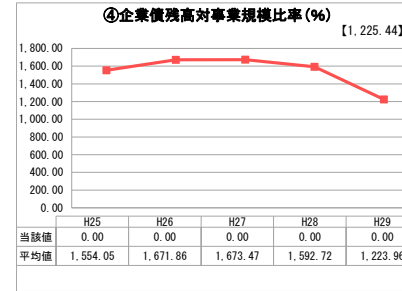
「単年度の収支」



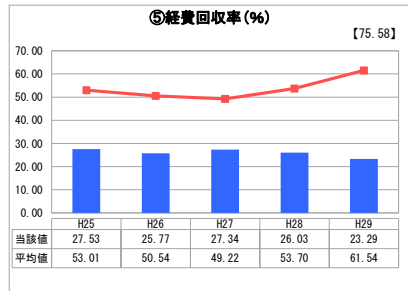
「累積欠損」



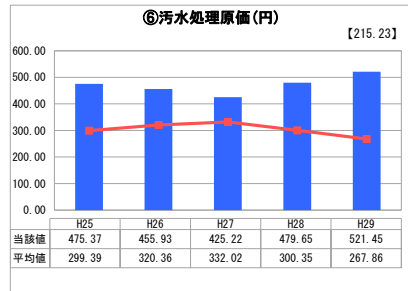
「支払能力」



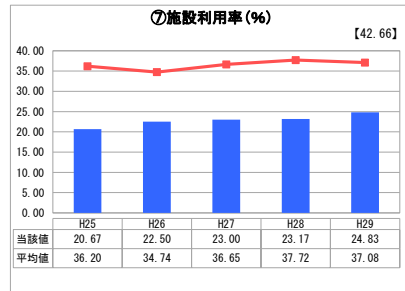
「債務残高」



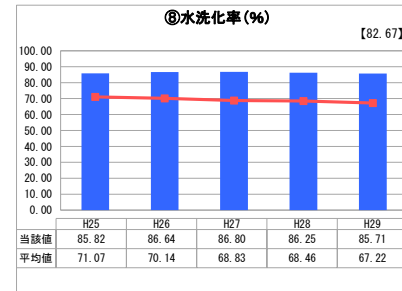
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

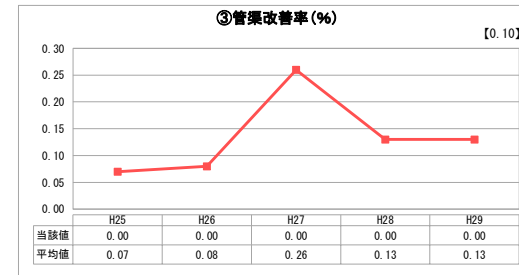
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

特定環境保全公共下水道は奥津温泉街を処理区域としており、処理面積は狭く定住人口も少ないのですが、道の駅や温泉施設、旅館等も処理区域に含むため、季節により処理水量に大きな変動があります。

観光地であること、また国指定の名勝「奥津溪」にも近いことから、高度処理と呼ばれる「膜分離活性汚泥法」という処理方式を採用しており、処理水質は上質なものとなっています。

経営の健全性・効率性

①収益的収支比率は100%（収入で維持管理費等の収益的支出が賅えている状態）ですが、⑤経費回収率が23%程度であることから明らかなように、一般会計からの繰入金が必要なウエイトを占めています。

⑥の汚水処理原価も上昇していますが、会計規模自体が小さいため、修繕費等の状況により大きく変動します。

⑦施設利用率、⑧水洗化率については、ほぼ横ばいの状態となっています。

このうち、施設利用率については平成32年度にも隣接する農業集落排水施設（奥津北地区）を取り込む予定としていることから、改善が期待できます。

2. 老朽化の状況について

本事業は、供用開始が平成18年3月31日と比較的新しいことから、管路については更新の検討等は必要ない状況です。

しかし、処理場の機械電気設備やポンプ設備等、耐用年数の短い箇所については修繕費も増加しており、計画的な更新の検討が必要となっています。

全体総括

本事業については、平成32年度にも予定している農業集落排水施設の取り込みにより、経営状況等は大きく変わるものと予想しています。

また平成30年度より公営企業会計制度を適用したことから、より詳細な経営分析・経営計画策定が可能になります。

施設設備の更新計画策定と併せ、より効果的・効率的な経営を目指します。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県 鏡野町

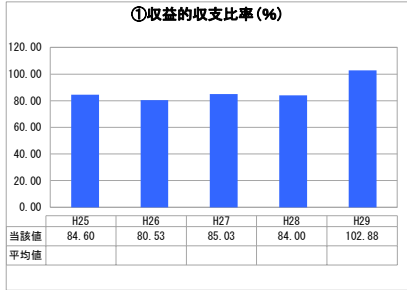
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	16.58	100.00	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,211	419.68	31.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,174	1.10	1,976.36

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



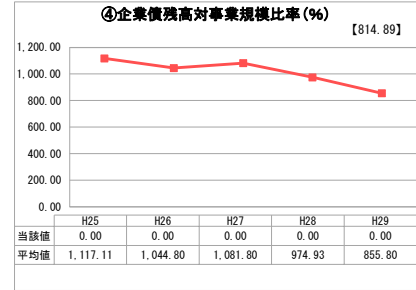
「単年度の収支」



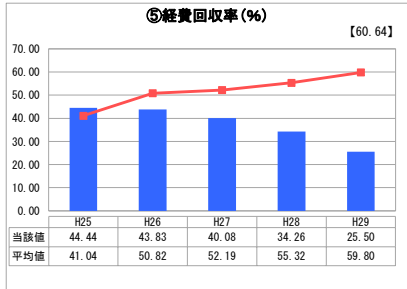
「累積欠損」



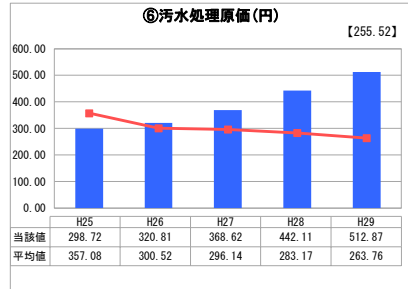
「支払能力」



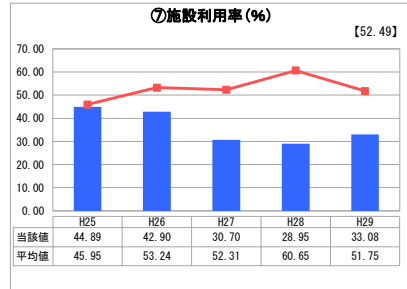
「債務残高」



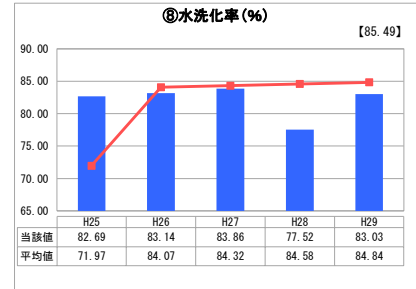
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

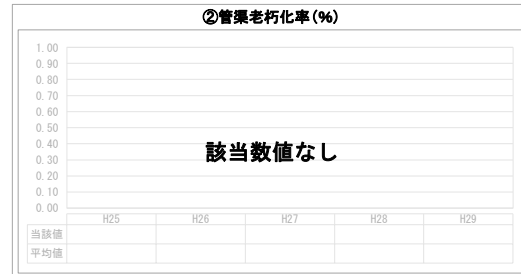


「使用料対象の捕捉」

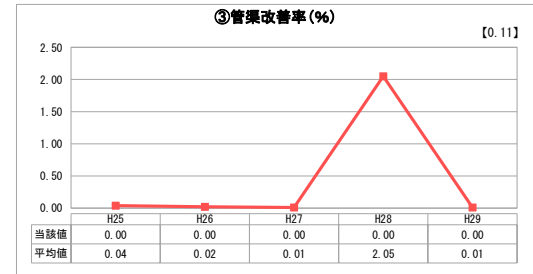
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

鏡野町の農業集落排水施設は、鏡野地区に1か所、上齋原地区と奥津地区に各3か所、富地区に1か所の計9地区があります。
最も対象人数が多い地区は673人、最も少ない地区は42人と規模が異なります。
①収益的収支比率は平成28年度にすべての地区の整備が完了したため、100%を超えましたが、地方債償還金に係る一般会計繰入金のうち、下水道事業債の償還に要する経費は資本的収入の繰入として計上しているため依然高い水準で推移しています。
⑤経費回収率低下、⑥汚水処理原価の上昇の主な原因は最も人口の多かった大野小座地区が公共下水道に編入されたためと、平成27年度から公営企業会計適用のための準備を進めており、その経費が通常の維持管理分に加え必要となっているためと考えられます。⑦施設利用率、⑧水洗化率については供開始地区が増加したことにより今後の改善が見込まれます。
企業債残高対事業規模比率が0%となっているのは、本町の企業債元利償還金がすべて一般会計からの繰入基準に合致しているためですが、平成29年度末の企業債残高は18億3千万と未だ高額となっています。

2. 老朽化の状況について

本町の農業集落排水施設は、最も古いものでも平成12年度からの供開始であり、比較的新しい施設となっています。
また、管路・ポンプ施設や処理場については全て、専門業者に運転・点検・維持管理を委託しており、必要な時期には修繕・改修等の対応を行っています。
平成25年度に行った機能診断調査の結果に基づき、更新が必要な箇所については、平成29年度から3か年計画による農業集落排水事業（機能強化対策）を行い国庫補助事業による施設の長寿命化を図っています。

全体総括

農業集落排水施設のうち、特定環境保全公共下水道に隣接する「奥津北地区」については、今後特定環境保全公共下水道に取り込むことを計画しています。
平成28年度に「小田・入地区」の整備が完了したことから、今後は水洗化を推進し、使用料収入の増加を図っていきます。
これら諸施策の実施により、経営状況を着実に向上させていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県 鏡野町

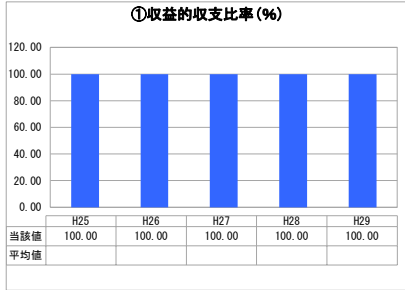
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.51	100.00	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,211	419.68	31.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
67	0.11	609.09

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



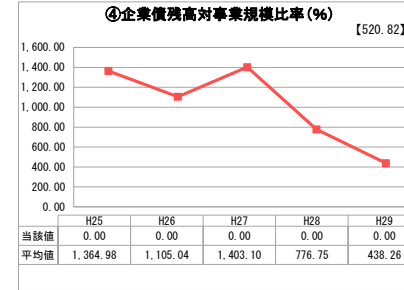
「単年度の収支」



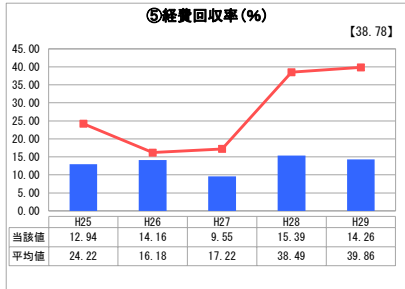
「累積欠損」



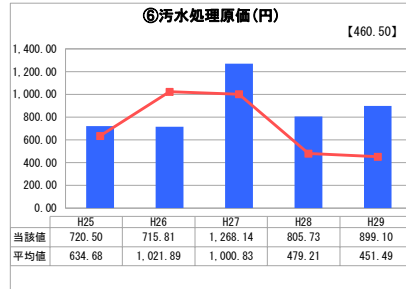
「支払能力」



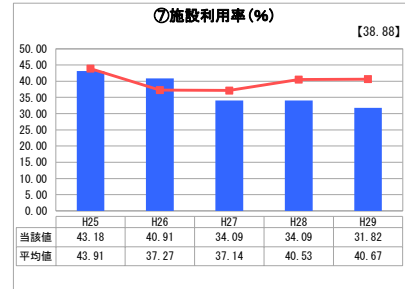
「債務残高」



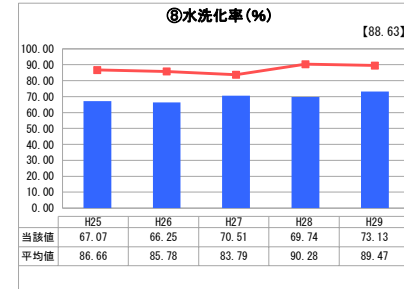
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

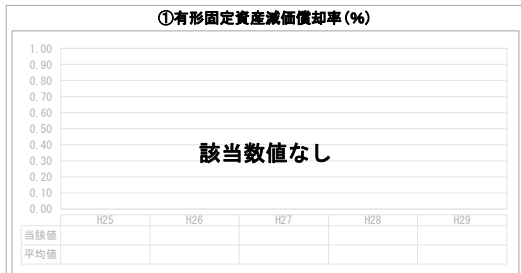


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

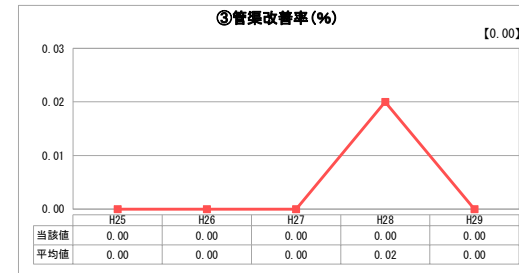
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

林業集落排水施設は、奥津地区の羽出西谷上と源泉の2か所に整備しています。
2地区あわせても対象人口が67人と非常に規模が小さいことから、経営は非常に厳しいものとなっています。
特に⑤経費回収率と⑥汚水処理原価は施設が小規模であるため、簡単な修繕等でも大きく影響が出ます。

2. 老朽化の状況について

施設はそれぞれ平成14年と15年に使用開始しており、比較的新しいものです。
施設規模や経営状況から、単独での大規模修繕は不可能な状態であり、今後迎える施設設備更新時期には、機能強化事業等何らかの助成が受けられる方策の検討が必要となります。

全体総括

林業集落排水事業は、規模が極端に小さいため、経営という観点からは非常に厳しいものとなります。
他地区との統合については、隣接地に他の下水道事業がなく困難な状況です。今後は町の他部署や県等と協議をし、何らかの対策を実施する必要があると考えています。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。